回復期リハビリテーション

回復期リハビリテーション病棟とは

回復期リハビリテーション病棟は、病気やけがで急性期の医療を要する期間が終了しても、なお家庭復帰のために集中的なリハビリテーションアプローチが必要な方に、機能的な訓練だけでなく、病棟生活全般を含めて高度なリハビリテーションアプローチを行う病棟です。

患者・家族を中心として、さまざまな職種がチームとなってリハビリケアを行います。

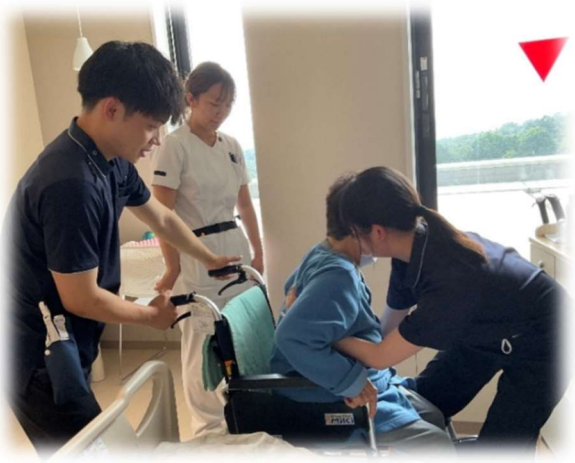
当院回復期リハビリテーション病棟の特徴

充実したリハビリの提供

365 日、元旦以外の土日祝日も休みなくリハビリの提供を行っています。
平日は 1 日 3 回、最大 9 単位（3 時間）のリハビリの提供を行っています。
定期的に勉強会や研修会を開催し、知識、技術の向上に努めています。

専従セラピストの配置

回復期リハビリテーション病棟のみ担当する専従セラピストでリハビリを実施しています。スタッフを病棟配属にすることで、看護師や管理栄養士など他職種とのコミュニケーションがとりやすく、ひらかれた関係性を作ることができています。



充実したさまざまなカンファレンス

チームカンファレンス；

回復期リハビリテーション病棟に入院した患者様すべてに、入院した 2～3 日中にチームカンファレンスを担当スタッフで行います。そこでは、各自が持っている情報をみんなで共有したり、目標を設定したりします。また、各職種がそれぞれどのように関わっていくかなどの話し合いを行います。その際に、再評価日を設定し、チームカンファレンスは定期的に開催され、目標の見直しなどを行います。

中間・退院前カンファレンス；

自宅退院に向けて、患者さまとご家族さまを含めたカンファレンスを実施しています。病院ではどのように動いているのか、トイレはどうしているかなどの情報を共有します。また、自宅退院に向けた話し合いを行い、安心してご自宅に戻れるようにすすめています。必要に応じて、ケアマネージャーや福祉用具関係者、退院後に利用するサービス担当者にも同席してもらいカンファレンスを行っています。

リハビリ栄養の強化

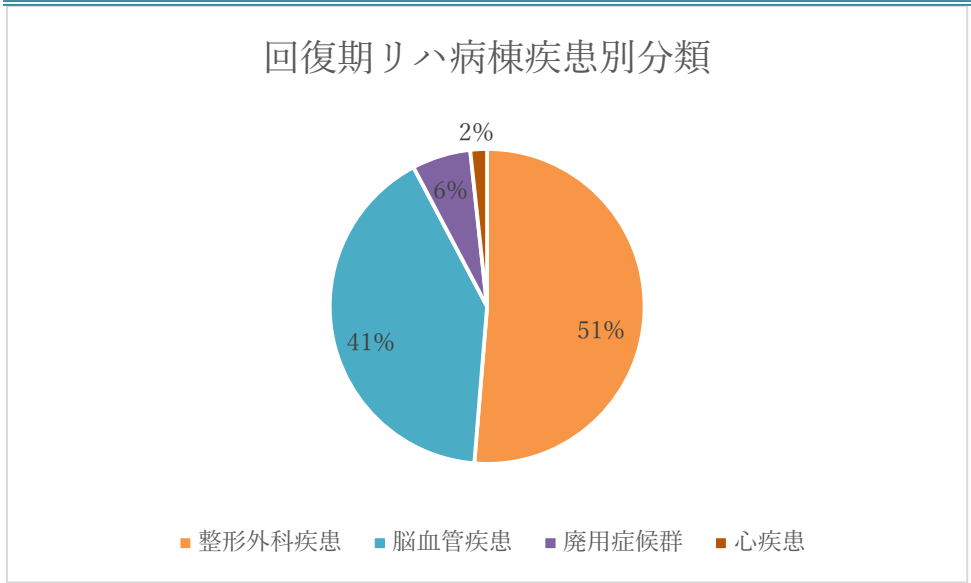
回復期リハビリテーション病棟に入院する高齢患者さんの多くは、低栄養とサルコペニア（加齢による筋肉量の減少および筋力低下）を有しています。栄養状態と、日常生活動作の改善率、自宅退院率は比例しており、入院患者さんの栄養状態の改善は必須となっています。当院では、栄養への取り組みに力を入れており、食欲はあるか、嚥下状態はどうか、食事姿勢はどうか、日中の活動量に応じた適切なカロリーが摂取されているかなど、多岐にわたって他職種で評価し情報共有、栄養の目標設定、アプローチを行っています。

地域リハビリとの連携

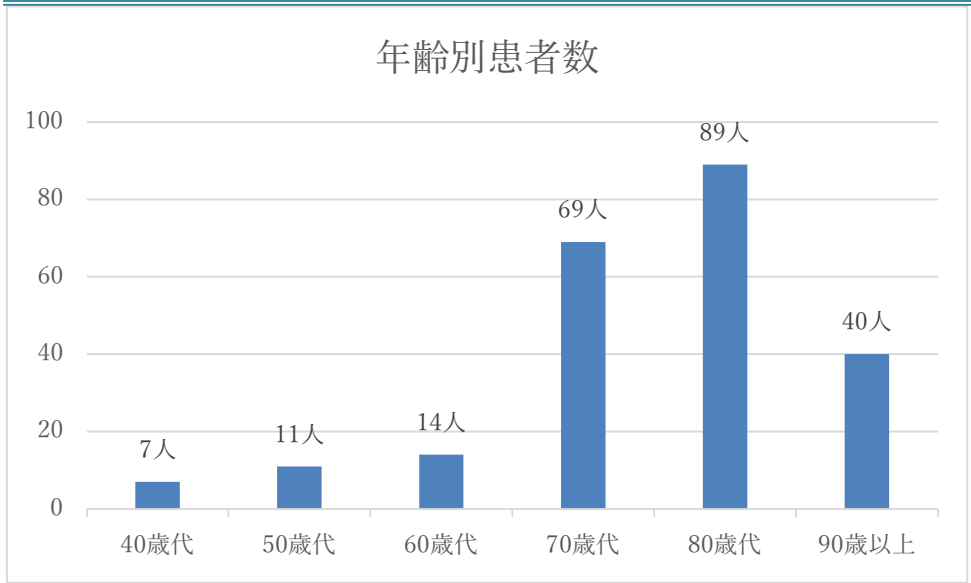
当院では、介護保険での訪問リハビリ、長・短時間の通所リハビリが併設されています。必要に応じて、退院後のリハビリサービスの提供を行い、切れ目のないリハビリの介入で安心してご自宅で過ごしていただけるよう連携を図っています。入院中より介護保険スタッフと情報交換を行いながら、スムーズに自宅へ戻れるように支援しています。

当院回復期リハビリテーション病棟の実績　2022 年

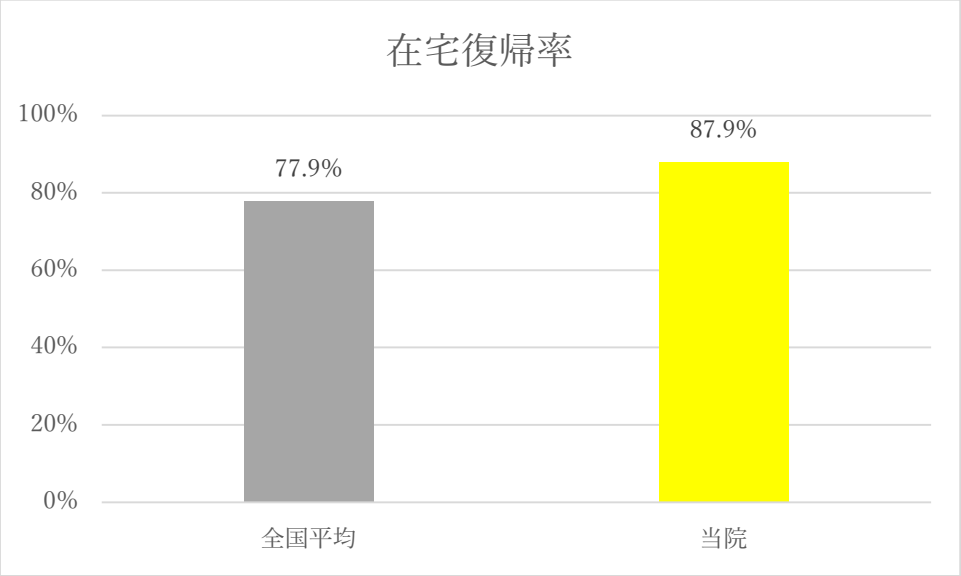
回復期リハ病棟疾患別分類

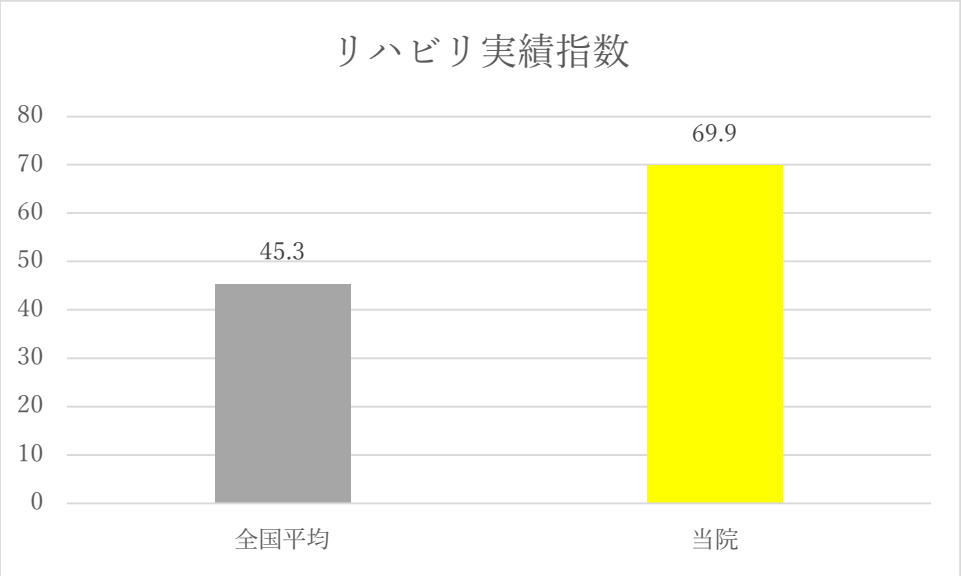


年齢別患者数



在宅復帰率



リハビリ実績指数

リハビリ実績指数とは、リハビリの効果を測る指標のひとつです。入院時と退院時でどのくらい日常生活動作が改善したかを点数化し、それに要した入院期間を所定の計算式に当てはめて算出します。リハビリ実績指数の数値が大きいほど、リハビリテーションの効果が高いといえます。